

付 録

目 次

令和)年度 行事計画表	C-1
専攻科に関する規則	C-2
特別実験一覧	C-7
特別研究テーマ一覧	C-8
インターンシップに関する手続き	C-10
進路に関する手続き	C-16
令和)年度 専攻科授業担当者	C-25

令和5年度 本 科 生 お よ び 専 攻 科 生 行 事 計 画 表

和歌山工業高等専門学校

vol.5

日	4		5		6		7		8		9		10		11		12		1		2		3	
	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科
1 土	入学式・開学式	月 遠隔授業日	4 休講日	7 1 土	火 期末試験	5 金	1 日 期考	水	5 5 土	5 5 土	5 5 土	5 5 土	5 5 土	5 5 土	5 5 土	5 5 土	5 5 土	5 5 土	5 5 土	5 5 土	5 5 土	5 5 土	5 5 土	5 5 土
2 日	火 遠隔授業日	火 遠隔授業日	7 2 日	水	試験予備日 (本校禁止)	2 月 1 日	1 木	1 木	5 5 土	5 5 土	5 5 土	5 5 土	5 5 土	5 5 土	5 5 土	5 5 土	5 5 土	5 5 土	5 5 土	5 5 土	5 5 土	5 5 土	5 5 土	5 5 土
3 月	水 憲法記念日	水 憲法記念日	3 月 11 日	木	12 木	12 木	1 金	文化の日	1 金	1 金	1 金	1 金	1 金	1 金	1 金	1 金	1 金	1 金	1 金	1 金	1 金	1 金	1 金	1 金
4 火	木 みどりの日	木 みどりの日	4 火	火	12 金	12 金	1 土	1 土	1 土	1 土	1 土	1 土	1 土	1 土	1 土	1 土	1 土	1 土	1 土	1 土	1 土	1 土	1 土	1 土
5 水	入学式・開学式	金 こどもの日	8 5 水	水	12 土	12 土	1 日	1 日	1 日	1 日	1 日	1 日	1 日	1 日	1 日	1 日	1 日	1 日	1 日	1 日	1 日	1 日	1 日	1 日
6 木	木 始業式・健康診断	土	8 6 木	木	12 日	12 日	1 月	1 月	1 月	1 月	1 月	1 月	1 月	1 月	1 月	1 月	1 月	1 月	1 月	1 月	1 月	1 月	1 月	1 月
7 金	金 1 日 期考	水	8 7 金	水	12 月	12 月	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日
8 土	土	4 木	8 8 土	木	12 土	12 土	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日
9 日	日	4 金	8 9 日	金	12 日	12 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日
10 月	1 1 水	4 土	9 10 月	土	13 木	13 木	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日
11 火	1 1 木	4 日	9 11 火	日	13 火	13 火	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日
12 水	1 1 金	5 1 土	9 12 水	土	13 水	13 水	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日
13 木	1 1 土	専攻科 推薦入試・学力入試 (午前登校禁止)	9 13 木	木	13 木	13 木	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日
14 金	2 2 日	月 遠隔授業日	9 14 金	金	13 金	13 金	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日
15 土	3 3 日	月 遠隔授業日	9 15 土	土	13 土	13 土	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日
16 日	4 4 日	月 遠隔授業日	9 16 日	日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日
17 月	2 2 日	月 遠隔授業日	9 17 月	月	13 月	13 月	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日
18 火	2 2 日	月 遠隔授業日	9 18 火	火	13 火	13 火	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日
19 水	2 2 日	月 遠隔授業日	9 19 水	水	13 水	13 水	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日
20 木	2 2 日	月 遠隔授業日	9 20 木	木	13 木	13 木	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日
21 金	3 3 日	月 遠隔授業日	9 21 金	金	13 金	13 金	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日
22 土	3 3 日	月 遠隔授業日	9 22 土	土	13 土	13 土	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日
23 日	3 3 日	月 遠隔授業日	9 23 日	日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日
24 月	3 3 日	月 遠隔授業日	9 24 月	月	13 月	13 月	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日
25 火	3 3 日	月 遠隔授業日	9 25 火	火	13 火	13 火	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日
26 水	3 3 日	月 遠隔授業日	9 26 水	水	13 水	13 水	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日
27 木	3 3 日	月 遠隔授業日	9 27 木	木	13 木	13 木	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日
28 金	4 4 日	月 遠隔授業日	9 28 金	金	13 金	13 金	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日
29 土	4 4 日	月 遠隔授業日	9 29 土	土	13 土	13 土	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日
30 日	4 4 日	月 遠隔授業日	9 30 日	日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日
31 月	4 4 日	月 遠隔授業日	9 31 月	月	13 月	13 月	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日

和歌山工業高等専門学校専攻科授業科目の履修に関する規則

制 定 平成14年4月1日

最近改正 平成30年4月1日

(趣旨)

第1条 和歌山工業高等専門学校(以下「本校」という。)学則第46条第2項及び第49条の規定に基づき、専攻科の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了については、この規則の定めるところによる。

(授業)

第2条 授業の1単位時間は、標準60分とする。

2 1単位の履修時間は、授業及び教室外での学習をあわせて45単位時間とし、次の基準により単位数を計算するものとする。

- 一 講義については、15単位時間の授業をもって1単位とする。
- 二 演習については、30単位時間の授業をもって1単位とする。
- 三 実習及び実験については、45単位時間の授業をもって1単位とする。

(履修方法)

第3条 授業科目の履修に当たっては、年度当初に、別に定める履修届を提出しなければならない。

(試験)

第4条 試験は定期試験及び追試験とする。

- 2 定期試験は、前期末及び学期末に実施する。
- 3 追試験は、病気その他やむを得ない理由により、定期試験を受けられなかった者に対して実施する。

(成績評価)

第5条 成績は、授業科目ごとに前条に規定する試験の成績及び平素の学習状況等を総合して評価する。

2 成績の評点及び評定は次のとおりとする。

評 点	100～80	79～70	69～60	59以下
評 定	A	B	C	D

(単位の設定)

第6条 前条第2項の規定に基づき、A、B及びCに評価された科目については、当該授業科目の単位を履修したものと認定する。

(再履修)

第7条 単位を認定されなかった授業科目は、原則として次年度において再履修するものとする。

(修了に必要な要件)

第8条 専攻科の修了認定は、専攻科成績判定会議で審議の上、校長が行う。

2 専攻科の修了は、学則第47条に規定するもののほか、次の区分による単位を修得し、かつ、原則として、次の各号の要件を満たしていなければならない。

専攻	科目	専 門 科 目		合 計	
		一般科目	専門共通科目		専門専攻科目
	メカトロニクス工学専攻	6単位以上	12単位以上	36単位以上	62単位以上
	エコシステム工学専攻	6単位以上	12単位以上	36単位以上	62単位以上

- 一 学位取得のための申請受付時の手続きが完了していること。
- 二 地域環境デザイン工学教育プログラム(以下同プログラムという。)において124単位以上修得していること。
- 三 同プログラムにおいて別に定める達成度評価基準に合格していること。

(他の専攻で履修した単位認定)

第9条 本校の他専攻で開設されている選択科目の履修を希望する者は、あらかじめ指導教員の許可を得たうえで、受講届を提出しなければならない。これにより修得した単位は、8単位を超えない範囲で、専攻科における授業科目の履修とみなし、その単位の修得として認定することができる。

(他の教育施設等での学修等及び単位認定)

第10条 大学及び他の高等専門学校の専攻科等(以下「大学等」という。)で開設されている授業科目の履修を希望する者は、あらかじめ大学等の許可を得たうえで、受講届を提出しなければならない。これにより修得した単位は、16単位を超えない範囲で、専攻科における授業科目の履修とみなし、その単位の修得として認定することができる。ただし、これにより修得した一般科目の単位は2単位を限度とし、専門科目の単位は14単位を限度とする。

2 前項以外で、単位を認定する場合の要項は別に定める。

(雑則)

第11条 この規定に定めるもののほか、専攻科の授業科目の履修に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

(省略)

専攻科で開設する選択科目の履修届、取下げに関する取扱い

制 定 平成16年9月30日

選択科目の履修については、次の手続をとること。

1. 「選択科目履修届」を学生課教務係に所定の時期までに提出すること。
2. 「選択科目履修届」を提出した授業科目の履修を年度途中で取りやめる場合、「履修取下げ願」（別記様式）を、科目担当教員を経て前学期については5月末までに、後学期については11月末までに学生課教務係に提出することにより、履修を取りやめることができる。

和歌山工業高等専門学校専攻科インターンシップの履修に関する規則

制 定 平成16年4月1日

（目的）

第1条 この規則は、和歌山工業高等専門学校専攻科で開設するインターンシップの履修に関し必要な事項を定めることを目的とする。

（インターンシップ機関の選定）

第2条 学生がインターンシップを履修する国若しくは地方公共団体の機関又は企業等の法人（以下「インターンシップ機関」という。）は、専攻科委員会の議を経て、校長が選定する。

（申込書）

第3条 インターンシップを履修する学生（以下「インターンシップ生」という。）は、別記様式の申込書を、校長を経てインターンシップ機関に提出しなければならない。

- 2 前項の申込書は、校長が認めるときは、インターンシップ機関所定の申込書をもって替えることができる。

（履修）

第4条 インターンシップ生は、インターンシップ機関の定める諸規則及びインターンシップ機関の責任者（以下「機関責任者」という。）の指示に従って履修しなければならない。

（報告書）

第5条 インターンシップ生は、別に定める報告書を、機関責任者の認印を得て専攻科長に提出しなければならない。

（履修時間）

第6条 インターンシップの履修時間は、インターンシップ機関において定める時間又は機関責任者の指定する時間とする。

（雑則）

第7条 この規則に定めるもののほか、インターンシップの履修に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

（省略）

大学及び他の高等専門学校専攻科等で開設されている授業科目以外での単位認定に関する取扱要項

制 定 平成17年12月7日

（趣旨）

第1条 和歌山工業高等専門学校専攻科授業科目の履修に関する規則第10条第2項の規定に基づき、大学及び他の高等専門学校専攻科等（以下「大学等」という。）で開設されている授業科目以外での学修について単位を認定する場合の要項を定める。

（定義）

第2条 大学等で開設されている授業科目以外での学修とは、次の学修をいう。

TOEICテストによる学修

（単位認定）

第3条 第2に規定する学修により、和歌山工業高等専門学校専攻科で単位の認定を受けようとするときは、別記様式による大学等で開設されている授業科目以外における学修単位申請書に、認定証等の写を添え、専攻科長を経て、校長に提出しなければならない。

- 2 単位の認定は、専攻科委員会の議を経て校長が行う。
- 3 第2に規定する学修における認定単位数の限度等は、別表に定めるとおりとする。
- 4 認定された単位は、大学等で開設されている授業科目以外における学修単位申請書が受理された年度の単位とする。

附 則

（省略）

別表

技能審査の種類	認定単位数
TOEIC（スコア470点以上）	2単位
TOEIC（スコア730点以上）	4単位

備考 既に単位の認定を受けている者がより上位のスコアを認定された場合は、表中の認定されたスコアの認定単位数から既に認定を受けている単位数を差し引いた単位数を当該技能審査の種類における認定単位数とする。

TOEICのスコアによる単位認定については、令和6年度より、620点以上2単位、820点以上4単位となる予定です。

和歌山工業高等専門学校地域環境デザイン工学教育プログラム履修規則

制 定 平成17年3月25日

最近改正 平成30年4月 1日

(目的)

第1条 和歌山工業高等専門学校（以下「本校」という。）における地域環境デザイン工学教育プログラム（以下「本教育プログラム」という。）の教育課程の履修及び修了認定は、この規則の定めるところによる。

(地域環境デザイン工学)

第2条 地域環境デザイン工学は、別表1に定める科目によって構成する。

(履修者の決定)

第3条 本教育プログラムの履修者は、本校専攻科への入学をもって本教育プログラム履修者に決定する。

(学習・教育目標)

第4条 専攻科は、学則第40条の目的を実現するため、別表2に定める学習・教育目標の達成に努めなければならない。

(プログラム構成)

第5条 本教育プログラムは、本校の準学士課程第4・5学年と専攻科課程の4年間とする。なお、授業科目及び単位数は和歌山工業高等専門学校学則別表第1から別表第3の教育課程に示すとおりとする。

(認定対象学生)

第6条 本教育プログラムの認定対象学生は、第3条に定める専攻科学生全員とする。

2 本校以外の高等専門学校及び大学等（以下「他の高等教育機関等」という。）から本教育プログラムに入学した学生に係る学修については、別に定める取扱いに基づいて、他の高等教育機関等で修得した単位を認定する。

(修了要件)

第7条 本教育プログラムの修了要件は次の各号とし、全てを満たした者に修了証書を授与する。

- 一 専攻科の教育課程を修了していること。
- 二 学士の学位を取得していること。
- 三 本教育プログラムにおいて124単位以上修得していること。
- 四 別に定める達成度評価基準に合格していること。

(修了認定)

第8条 本教育プログラムの修了認定は、専攻科成績判定会で審議のうえ、校長が行う。

2 前条各号に掲げる修了要件のうち、同条第2号のみを満たすことのできなかった者が、専攻科修了後学士の学位を取得し、専攻科修了後2年以内に修了認定申請書（様式1）を提出した場合は、本教育プログラムの修了を認定し、修了証書を授与する。

- 一 修了認定日は、学位を取得した日とする。
- 二 本項により難しい場合は、専攻科成績判定会において審議し、校長が決定する。

附 則

(省略)

和歌山工業高等専門学校以外の高等教育機関で修得した単位及び学修の 地域環境デザイン工学教育プログラムにおける取扱い

制 定 平成17年3月25日

最近改正 平成30年4月 1日

(趣旨)

- 1 和歌山工業高等専門学校（以下「本校」という。）専攻科に入学した者の、本校以外の高等専門学校及び大学等（以下「他の高等教育機関等」という。）で修得した単位及び学修について、地域環境デザイン工学教育プログラム（以下「本教育プログラム」という。）の修了に関する取扱いを定める。

(対象とする単位及び学修)

- 2 本取扱いが対象とする単位及び学修とは、次のいずれかに該当するものをいう。
 - 一 本校専攻科入学以前に、他の高等教育機関等に在籍した者が、当該高等教育機関等で修得した単位
 - 二 本校の準学士課程に在籍した者が、本校学則第14条の2及び第14条の3の規程に基づき、他の高等教育機関等において修得した単位及び学修、その他文部科学大臣が別に定める学修
 - 三 本校専攻科入学以前に他の高等教育機関等に在籍した者が、当該高等教育機関等以外の高等教育機関等において修得した単位及び学修、その他文部科学大臣が定める学修

(申請)

- 3 第2項に定める単位及び学修について、本教育プログラムの修了に関わる単位として認定を受けようとする者（以下「申請者」という。）は、本校専攻科入学後直ちに本教育プログラム単位認定申請書（様式1）を、学生課教務係に提出しなければならない。

(認定)

- 4 第3項により申請があった場合は、次の各号により専攻科委員会で審査し、運営委員会の議を経て、校長が本教育プログラムの修了に関わる単位及び学修として認定する。
 - 一 日本技術者教育認定機構（以下「JABEE」という。）の認定を受けた他の高等教育機関等において修得した単位については、当該科目の成績評価及びシラバスに基づき審査を行う。
 - 二 JABEEの認定を受けていない他の高等教育機関等において修得した単位については、前号に定める要件の他、当該高等教育機関等の成績評価基準に関する資料等により審査を行うか、若しくは本校の行う試験の成績に基づいて審査を行う。

(通知)

- 5 校長は、上記により、本教育プログラムの修了に関わる単位及び学修を認定した場合は、認定通知書（様式2）により、専攻科長を経て申請者に通知するものとする。

附 則

(省略)

和歌山工業高等専門学校専攻科学生に係る地域環境デザイン工学教育プログラムの定める水準に達していない科目の取扱い

制 定 平成17年3月25日

最近改正 平成30年4月 1日

(趣旨)

1 この取扱いは、和歌山工業高等専門学校（以下「本校」という。）専攻科に入学した者の、地域環境デザイン工学教育プログラム（以下「本教育プログラム」という。）の「水準達成を要する科目」について水準を達成することを目的として、以下のとおり定める。

(水準達成を要する科目)

2 「水準達成を要する科目」とは、本教育プログラムの認定対象科目のうち、次のいずれかに該当するものをいう。
一 本教育プログラム履修者が、本校の専攻科入学以前に本校又は他の高等教育機関において単位を修得していない科目

二 本教育プログラム履修者が、本校の専攻科入学以前に本校又は他の高等教育機関において単位を修得した科目で、本教育プログラムの定める学習・教育目標の水準を達成していることが確認できない科目

3 「水準達成を要する科目」は、本校専攻科入学の際に提出された成績証明書及びシラバスに基づき専攻科委員会において審議し、運営委員会の議を経て校長が決定する。

(プログラム単位)

4 プログラム単位とは、本教育プログラムの修了に必要な単位であり、本教育プログラムの水準達成を要する科目の履修によってのみ修得できるものであって、学則第13条並びに第46条に定める本校教育課程の単位とは異なる。

(本教育プログラム水準達成の証明)

5 本教育プログラム履修者が第2項第1号に定める科目を履修し、本教育プログラムの設定する学力水準に達した場合には、「地域環境デザイン工学教育プログラム履修証明書」(様式1)によって証明する。

6 本教育プログラム履修者が第2項第2号に掲げる科目を履修し、本教育プログラムの設定する水準に達した場合には、「地域環境デザイン工学教育プログラム水準達成証明書」(様式2)によって証明する。

(プログラム単位の証明)

7 プログラム単位数は、「地域環境デザイン工学教育プログラム履修証明書」並びに「地域環境デザイン工学教育プログラム水準達成証明書」によって証明する。

(履修及び補習指導)

8 第2項第1号又は第2項第2号に定める科目の水準を達成しようとする者は「水準達成を要する科目の履修申請書」(様式3)又は「水準達成を要する科目の補習申請書」(様式4)を学生課教務係に提出するものとする。

9 履修又は補習担当教員（以下「当該科目担当教員」という。）は、専攻科委員会で協議のうえ、運営委員会の議を経て校長が指名する。

(達成度の証明)

10 第2項第1号に該当する科目について、本校の準学士課程における本教育プログラムの認定科目を履修し、本教育プログラムの水準が達成された場合、当該科目担当教員は「地域環境デザイン工学教育プログラム履修証明書」(様式1)を学生課教務係に提出するものとする。

11 第2項第2号に該当する科目について、当該科目担当教員は1単位につき90分以上の補習を実施し、試験又はレポート等により水準達成度を評価する。

本教育プログラム水準が達成されたと認められる場合、当該科目担当教員は「地域環境デザイン工学教育プログラム水準達成証明書」(様式2)を学生課教務係に提出するものとする。

(履修及び補習指導内容等の審査及び記録の保存)

12 専攻科委員会は、第5項及び第6項に定めた証明書に基づいて、履修、補習指導及び達成度の評価について審査し、その結果を運営委員会に報告する。なお、これらの証明書は5年間保存するものとする。

(水準達成及びプログラム単位の認定)

13 水準達成及びプログラム単位の認定は、第5項及び第6項に定めた証明書に基づき、専攻科委員会で審査し、運営委員会の議を経て、校長が認定する。

14 校長は、認定結果を本教育プログラムの修了に係る水準達成及びプログラム単位として「地域環境デザイン工学教育プログラム水準達成認定通知書」(様式5)により、専攻科長を経て申請者に通知する。

附 則

(省略)

令和5年度専攻科特別実験一覧

前期:創造デザイン 後期:地域環境デザイン工学に関する実験・演習

開講期	実施週	研究テーマ	実験場所	担当者	学科	専攻
前期	1～14	創造デザイン	未定	A:樫原、山東 B:直井、岡部 C:奥野、楠部 D:伊勢、平野	ABCD	メカ エコ
前期	15	成果発表会				
後期	1～14	地域環境デザイン(仮称)	各研究室	特別指導教員	ABCD	
後期	15	実験報告書の作成				

令和5年度 特別研究テーマ一覧(メカトロニクス工学専攻)

■ 機械工学

教員	研究テーマ
大村	熱特性評価方法に関する研究
檜原	加工・熱処理した金属材料の強度および組織に関する研究
山東	有限要素法を基礎とした構造解析に関する研究
津田	福祉機器やロボットなどのヒューマンインタフェースに関する研究
村山	自律移動ロボットの知能アルゴリズムに関する研究開発
大村・石橋	波動伝搬特性に関する研究
津田・徐	ロボットや福祉機器などのヒューマンインターフェースデバイスに関する研究

■ 電気電子工学

教員	研究テーマ
謝	人工知能の手法を用いたシステムの構築と問題解決への応用
岡本	可視光空間通信・組込み制御及びロボットの移動制御に関する研究
岩崎	信号処理の手法を用いたシステムの構築と問題解決への応用
岡部	次世代ロボットテクノロジーに関する研究開発とその応用
直井	電気材料の作製・特性評価・物性の数値シミュレーションに関する研究 半導体材料・デバイスに関する研究
岡本・岡部	メカトロニクスを応用したシステムの構築及び性能評価
謝・岩崎	情報技術に関するシステムの構築と問題解決への応用
津田	福祉機器やロボットのための計測制御に関する研究
直井・中嶋	半導体材料・デバイスに関する研究

令和5年度 特別研究テーマ一覧(エコシステム工学専攻)

■ 応用化学および生物工学

教員	研究テーマ
土井	生体機能性分子に関連する研究
岸本	分離工学および資源循環工学に関する研究
森田	細胞膜のモデル化とバイオセンサへの応用
楠部	極限環境微生物に関する研究
奥野	植物に含まれる天然機能性成分の探索および作用機構の解明
綱島	電気・エネルギーに関する化学・生物工学研究
西本	生体膜からみた生物の環境順応性に関する研究
デフィン	生物多様性の環境生物学的調査
綱島・舟浴	物性化学に立脚した分子集合体の構築と機能開拓

■ 土木工学

教員	研究テーマ
辻原	地震防災に関する研究
	地盤の微小振動の工学的応用に関する研究
	災害時の避難および避難行動に関する研究
小池	津波の数値解析による減災対策に関する研究
三岩	各種産業副産物を利用したコンクリートに関する研究
林	災害に強い地盤構造物構築のためのハード・ソフト対策に関する研究
	地盤環境を対象とした生物浄化技術の開発に関する研究
伊勢	地域・交通マネジメント支援に関する実践的研究
横田	環境化学分野のモニタリングに関するテーマ
伊勢・櫻井	持続可能な都市・地域形成のための土地利用計画に関する研究

この情報は令和4年度のものです

学外実習・インターンシップの応募について

教務主事
専攻科長

学外実習・インターンシップの企業・団体への応募について、以下のとおり定めますので、応募を希望する学生は速やかに応募希望の旨を担当の先生に報告してください。

1. 実習時間および期間について

実習時間は次のとおりとし、1企業(大学)での就業時間が基準に満たない場合、単位認定はしない。なお、専攻科については1企業(大学)で時間数に満たない場合は、別の企業(大学)によるものを含めても良い。また、オンライン形式での学外実習についても実習として認めます。

本科 30時間以上(科目名「県内インターンシップ」の場合は60時間以上)
専攻科 67.5時間以上

インターンシップを行う期間は、長期休業期間中とする。長期休業期間外の日程については、単位認定の期間に算入しない。なお、実習期間が授業日程にまたがる場合は原則として派遣を認めないが、やむを得ない理由がある場合は、担任を通じ、教務主事(専攻科長)に予め申し入れてください。

2. 応募の締切について

●第1締切…「高専キャリアサポートシステム」にある“更新日”から原則7日後※とする

※掲載企業によっては、随時内容を微修正している企業もあるので、当該インターンシップにかかる案内が初めて掲載された日から7日後とすることがあります。申し込む場合は、速やかに担任へ連絡するようにしてください。

更新日の記載箇所

なお、和歌山県労働政策課(和歌山経営者協会)が運営する「UIわかやま就職ガイド」で応募する場合、随時学生各自で申し込みをしてください(6月17日申込締切)。

また、学生自身が就職支援サイトなどでみつけた企業等のインターンシップに参加する場合は、派遣が妥当かどうか審議を要する場合がありますので、インターンシップの内容が分かる書類を学級担任に提出してください。(学級担任は、教務係にご一報ください。)

学内で選考が必要な企業・団体については、第1締切までに希望を出した者について選考の対象とする。第1締切までに希望者がいなければ、企業等が指定する申込み期限の原則1週間前まで先着順とする。

3. 応募および選考について

(1) 選考方法

応募者の学内選考が必要になった場合、第1締切の翌日に当人同士で話し合いのうえ決定する。決まらない場合はジャンケン・抽選等で選考を行う。選考の時間・場所等の設定、連絡は学級担任同士が行う。

(2) 応募および選考に関する申し合せ

応募中の企業(団体)の可否が決まるまで、別の企業(団体)に応募してはならない。

インターンシップ先の検索および申し込み方法について

インターンシップを実施する企業等の検索は、主に

A) 和歌山高専に案内のあった企業から選ぶ方法(→下記にある①や②のシステムで確認してください。)

B) 就職情報を扱ったサイト(リクナビ,マイナビ,理系インターナビ等)から選ぶ方法 があります。

※Bの方法でインターンシップを申し込む場合、申し込みを行う前(応募締め切りの1週間前まで)に、インターンシップの実習内容が分かる書類をクラス担任に提出してください。

①システム名：「高専キャリアサポートシステム」

☆コンテンツ☆：主に県外企業のインターンシップ受入情報を掲載

※一部県内企業の情報も掲載されるので、県内の企業を希望する学生は、下記②のシステムと併用して検索すること

☆閲覧方法☆：「高専キャリアサポートシステム」のサイト(<https://kosen-support.com/member/student-login/>)にアクセスし、学認システムを利用しログインをしてください。

※インターンシップ先企業等の情報は、6月下旬頃から随時掲載されます。

☆実習申込方法☆：インターンシップに申込みたい企業等を選び、まずはクラス担任に伝えてください。

その後、企業指定の申込様式(指定の様式がない場合、本校の「実習申込書」)に必要事項を記載の上、担任(専攻科生は副専攻科長)へ提出してください。

！学生自身で直接企業等に申込みしないこと！

☆申込期限☆：第1締切や学内選考方法は別紙「学外実習・インターンシップの応募について」を確認すること

☆申込後～実習までの流れ☆：学生課教務係を通じて企業等へ申込みします。

企業等から決定の連絡があり次第、担任(専攻科生は副専攻科長)を通じて連絡しますので、選択科目履修届を担任(専攻科生は副専攻科長)へ提出し、押印をもらったうえで、学生課教務係へ提出してください。

②システム名：「U I わかやま就職ガイド」

☆コンテンツ☆：主に和歌山県内企業のインターンシップ受入情報を掲載

☆閲覧方法☆：「U I わかやま就職ガイド わかやまインターンシップ」のサイト

("https://www.wakayama-uiturn.jp/student/wakayama-internship")にアクセスし、学生各自で新規会員登録し、ログインする。

※企業等側の情報掲載は、4月に数回にわたって随時掲載される予定

☆実習申込方法☆：インターンシップを申込みたい企業(第3志望まで選択可能)を選び、学生各自で申請。

☆申込期間☆：5月9日～6月17日

☆申込後～実習までの流れ☆：6月下旬にかけて和歌山県がマッチング作業を行い、インターンシップ先企業が決定されます。決定通知後、選択科目履修届を担任(専攻科生は副専攻科長)へ提出し、押印をもらったうえで、学生課教務係へ提出してください。

学外実習申込書

令和 年 月 日

実習申込先
_____写
真※写真の裏にはクラスと
名前を記載すること

学 校 名	和歌山工業高等専門学校	担当教員名		⑩
学 科 名	(学 科・専 攻)	学 年	第 学 年	
ふ り が な		生 年 月 日	平成	年 月 日 生
氏 名			(満 歳)	
ふ り が な				
現 住 所	〒			
携帯電話番号	※携帯電話を所持していない場合自宅でも構いません			
パソコン等 メールアドレス	※学校や企業とやりとりができる日常使用しているメールアドレスを記入してください			
ふ り が な		本人との 続柄		
保証人氏名		緊急時の 連絡先		
ふ り が な				
保証人住所	〒			
宿泊希望の有無	有 ・ 無 ※宿泊について実習先から特段の指示がない場合、自分で手配することになります			
備 考				

専攻科長印	
-------	--

選択科目履修届（登録書）

和歌山工業高等専門学校長 殿

工学専攻 第 学年 学級番号 番

氏名（自署）

登録内容

選択	選択科目名	単位数	科目担当教員名	備考
	インターンシップ	2	専攻科長	下記のとおり

Q1.実習時間について、オンラインでの実習時間も含めて、67.5時間以上の実習時間が確保されていますか？ (Yes ・ No)

※Noの場合は、単位認定はされませんので、提出は不要です。

※1企業（大学）で時間数に満たない場合は、最大2つまでの実習を合算可能とします。

【1つ目の実習先】

インターンシップ機関名：

インターンシップ先住所：

インターンシップ期間： 月 日 ～ 月 日

実習先までの交通手段： 徒歩 ・ 電車 ・ 単車 ・ その他()

実習方法： オンラインのみ ・ 実習(一部オンラインの場合も含)

【2つ目の実習先】※該当する場合のみ

インターンシップ機関名：

インターンシップ先住所：

インターンシップ期間： 月 日 ～ 月 日

実習先までの交通手段： 徒歩 ・ 電車 ・ 単車 ・ その他()

実習方法： オンラインのみ ・ 実習(一部オンラインの場合も含)

学外実習証明書

(インターンシップ参加学生へのフィードバック・評価表)

実習先名			
指導責任者 役職・氏名		指導者 役職・氏名	印
実 習 生	所属校※	和歌山工業高等専門学校 (本科 / 専攻科)	
	学科・専攻※	知能機械工学科・電気情報工学科・生物応用化学科・環境都市工学科 /メカトロニクス工学専攻・エコシステム工学専攻	
	氏名		

※該当するところを囲んでください。

実習期間・時間 該当する時間に“○”を つけてください	令和 年 月 日 ~ 月 日 合計 (30 時間以上 ・ 60 時間以上 ・ 67.5 時間以上)
実習出欠状況	出席 日 欠席 日 遅刻 日 早退 日

※実習期間の合計時間は、本科履修科目の「学外実習」の単位認定で30時間以上、「県内インターンシップ」の単位認定で60時間以上、専攻科履修科目の「インターンシップ」の単位認定で67.5時間以上必要となります。

下記事項にて当実習生の評価をお願いいたします。

(※該当する箇所に丸印を記入願います、実習中に評価できない項目については、空欄で結構です。)

実習生の取組姿勢評価 (新入社員に期待するレベルを基準として)

	全くできていない ※1	あまりできていない	ほぼできている	非常にできている
時間や規律を守る	1	2	3	4
基本的礼儀 (あいさつ、言葉遣い)	1	2	3	4
報告、連絡、相談	1	2	3	4
積極的に取り組む姿勢 (意欲)	1	2	3	4

※1全くできていないという評価の場合には、本校から再度指導を行いますので、該当するような場合にはなるべく早い段階で本人に警告して改善を促していただくとともに、本校担当者へご連絡ください。

学生へのアドバイス (総評、評点の理由・具体例など)

--

※ご記入の上、実習した学生または本校担当者(メール: kyoumu@wakayama-nct.ac.jp, 電話 0738-29-8230, FAX0738-29-8254)

宛てにご送付願います。(〆切: 月 日)

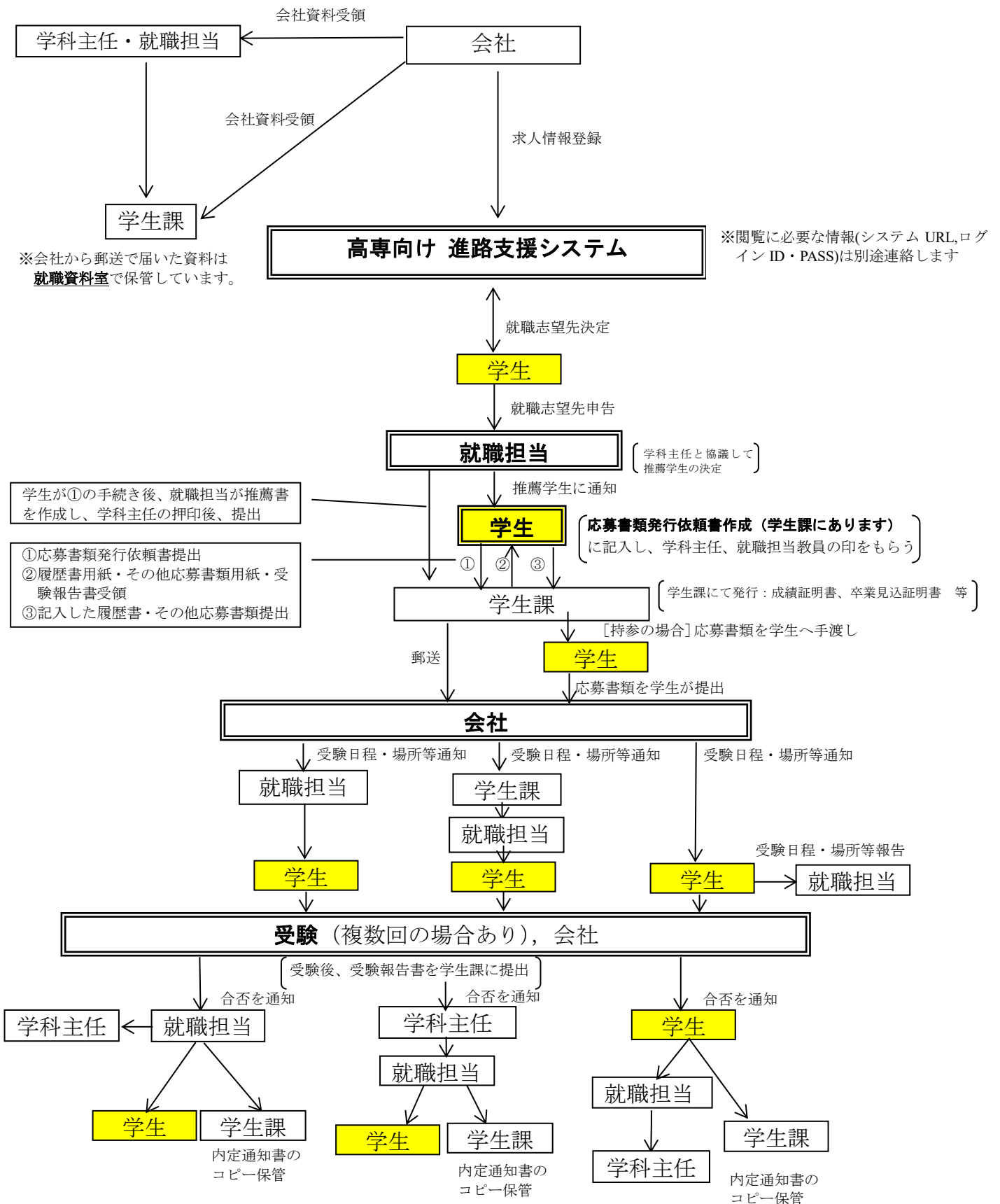
クラス・番号・氏名	
研修先及び部署名	
所 在 地	
実 習 期 間	月 日 ~ 月 日 実働 日間
①実習のテーマ・内容(どんなことを課題として取り組んだか。箇条書きやスケジュール表でも可。)	
②実習の結果(取り組みの経過や結果、結論などはどのようなになったか。)	
③今回の実習で発見したこと、身につけたこと(上の課題そのものにとらわれず、広い意味で。)	
④この実習をふまえて、これからの高専生活や将来の進路選択にどのように取り組んでいくか、気づいたことや抱負をのべよ。	
⑤その他、今回の研修で特に感じたことがあれば記入してください。	

進路希望調査票 (専攻科生用)

クラス・番号	・	進路	就職(民間企業、公務員) 大学院進学 自営業 その他
ふりがな氏名		志望進路先	第1志望： 第2志望： 第3志望： (就職：工場求職の場合は工場名，公務員希望は職種を記入 進学：学部・学科名まで記入)
生年月日		就職の場合は志望職種	1. 製造 2. 設計 3. 研究開発 4. 生産技術 5. 保守管理 6. 営業技術 7. ソフトウェア開発 8. システムエンジニア 9. サービスエンジニア 10. 営業・販売 11. 公務員 12. その他()
現住所 (寮・下宿・自宅)	〒	進学の場合は志望分野	1. 機械系 2. 計測制御系 3. 金属材料系 4. 電気・電力系 5. 電子・デバイス系 6. 情報系 7. 物質系 8. 生物系 9. 土木系 10. 建築系 11. 環境系 12. 都市計画系 13. その他()
緊急時の連絡先	Tel: 携帯電話等、連絡を取れる方法を記入してください。	第1志望先の志望動機 (5行程度)	
メールアドレス		第2志望先の志望動機 (5行程度)	
帰省先	〒	私のセールスポイント	
資格・特技	Tel:		
趣味			
アルバイト		その他特記事項	(例えば、海外勤務を希望など)

提出先：メカトロニクス工学専攻→北澤副専攻科長， エコシステム工学専攻→楠部副専攻科長， 提出締切：令和 年 月 日

就職に関する手続きの流れのイメージ



No.

これは見本。用紙は学生課で

学科主任	就職担当

就職応募関係書類発行依頼書

発行依頼書提出日	年 月 日 ()		
発行依頼者	学年 年 工学科・専攻 出席番号 よみがな 氏名		
応募先会社名等	求人票番号	会社名等 (正式名称)	
応募先会社等への提出書類	<input type="checkbox"/> 推薦書 (高専所定用紙)		推薦書受領日
	<input type="checkbox"/> 成績証明書 (本科) (高専所定用紙)		成績証明書受領日
	<input type="checkbox"/> 成績証明書 (専攻科) (高専所定用紙)		見込証明書受領日
	<input type="checkbox"/> 卒業 (見込) 証明書 (高専所定用紙)		
	<input type="checkbox"/> 修了 (見込) 証明書 (高専所定用紙)		健康診断証明書 受領日
	<input type="checkbox"/> 健康診断証明書 昭和・平成 年 月 日生		
	<input type="checkbox"/> 履歴書		<input type="checkbox"/> 高専所定用紙 <input type="checkbox"/> 会社指定用紙 記入した履歴書の学生課への提出予定日 月 日
<input type="checkbox"/> その他 書類名		記入した書類の学生課への提出予定日 月 日	その他書類受領日
会社等の応募締切日	<input type="checkbox"/> 会社指定 <input type="checkbox"/> 随時	(随時の場合は、会社等への応募書類到着希望日を記入してください) 年 月 日 ()	
応募書類の会社等への提出方法	<input type="checkbox"/> 学生課から会社等へ郵送してください。		高専発送日 (普通・速達・翌10) 電話連絡日
	<input type="checkbox"/> 学生本人が会社等へ持参します。		下記の日時に学生課窓口へ書類を受け取りに来ますので、ご準備願います。 年 月 日 () 時 分 学生に渡した日

※ 発行依頼者は**太枠**の中を記入し、学科主任・就職担当印を貰ってから学生課へ提出してください。その際に、履歴書やその他書類の正式な用紙を受け取ってください。
受験報告書は受験後 1 週間以内、受験結果報告書は結果が判り次第、学生課へ提出してください。

これは見本。用紙は学生課で

No. _____

進学関係書類発行依頼書

専攻科長	副専攻科長

年 月 日

専攻 番

フリガナ

氏名 _____

生年月日 平成 年 月 日

出願に伴う必要書類の発行をお願いします。

出願学校名	大学院		一覧表 整理番号
	研究科	専攻	
区分	推薦 ・ 学力 (どちらかに○をしてください)		
願書受付期間	月 日～ 月 日 → 必着・消印有効		
必要書類	<p>該当項目にチェックし、用紙の種類に○をしてください。</p> <p><input type="checkbox"/> ①推薦書 → 大学所定用紙・任意用紙</p> <p><input type="checkbox"/> ②調査書 → 大学所定用紙・任意用紙</p> <p><input type="checkbox"/> ③成績証明書 → 大学所定用紙・任意用紙</p> <p><input type="checkbox"/> ④修了見込証明書 → 大学所定用紙・任意用紙</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ _____</p> <p><input type="checkbox"/> ⑥ _____</p> <p>※ 大学所定用紙の場合は用紙を添付してください。</p>		
現住所	〒 _____ 現住所 _____ _____		
	携帯電話番号	_____	本籍地

1. 募集要項は各自で取り寄せてください。
2. この用紙は、**願書受付開始日の2週間前までに学生課教務係に提出**してください。(提出が遅れると必要書類を作成できない場合があります。)
3. 所定用紙(推薦書、調査書、健康診断書等)は必ず添付してください。
4. 願書等その他出願書類(検定料を含む)は、**願書受付開始2日前に教務係窓口まで持参**してください。発送は教務係が行います。(発送に関する郵便切手は不要ですが、受験票返信用の切手は各自で用意してください。また、出願書類の発送は、出願書類受領翌日になります。)
5. 出願書類のチェックは教務係では行いませんので各自責任を持って行ってください。

令和 年 月 日提出

提出者 クラス学級番号_____

氏名_____

専攻科長 殿

大学院推薦申込書

私は、下記の大学院への推薦入試受験を希望しています。つきましては、学校推薦をして頂きますよう申請致します。

記

大学院名	
研究科名	
専攻名等	
願書提出〆切日	
試験日	
推薦を希望する理由	
自己PRのために調査書等に記載を希望する事項(資格等)	
本件に係る学生連絡先	

教育プログラム学習・教育目標の自己達成度・満足度評価(1年前期・1年後期・2年前期・2年後期)

メカトロニクス工学専攻 _____年度入学 氏名_____

これは見本 Formsで実施します

学習教育目標	科目	学年	必・選	単位	選択の有無	学習・教育目標の達成度の自己判定					その理由や反省点等あれば記入してください。
						5	4	3	2	1	
(A) 和歌山県の地域環境、地域社会との共生に関する理解および倫理観を身につけ、公共の安全や利益に配慮したものづくりの考え方を理解し説明できる。	環境アセスメント	専1年	選択	2		5	4	3	2	1	
	現代アジア論	専2年	選択	2		5	4	3	2	1	
	技術者倫理	専2年	必修	2		5	4	3	2	1	
(B) 社会のニーズおよび地球環境に配慮したデザイン能力を身につけて技術開発計画を立案でき、長期的な視野に立って自己研鑽を継続できる。	工学特別実験	専1年	必修	4		5	4	3	2	1	
	特別研究Ⅰ	専1年	必修	4		5	4	3	2	1	
	特別研究Ⅱ	専2年	必修	10		5	4	3	2	1	
	創造プログラミング	専2年	選択	2		5	4	3	2	1	
(C) 自主的・継続的な学習を通じて、自己の専門分野で深い学問的知識や経験に加え、他分野にまたがる幅広い知識を身につける。	(C-1) 自然科学・情報技術に関する基礎的素養を有し、専門分野での問題解決のためにそれらを駆使できる能力を身につける。	数理工学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		数理統計学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		数値計算・解析法	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		量子力学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		線形代数	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		情報理論	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		生産工学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		環境化学工学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		環境分析	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		センサー工学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
	(C-2) それぞれの専門分野に関する深い学問的知識と実験・実習で得た多くの経験を持ち、それらを問題解決のために応用できる能力を身につける。	パワーエレクトロニクス特論	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		精密加工学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		信号処理理論	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		材料科学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		応用エネルギー工学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		計測制御工学	専2年	選択	2		5	4	3	2	1
		応用電子回路	専2年	選択	2		5	4	3	2	1
		情報伝送工学	専2年	選択	2		5	4	3	2	1
		機能材料学	専2年	選択	2		5	4	3	2	1
		ロボット工学	専2年	選択	2		5	4	3	2	1
(C-3) 長期的視点に立ち、計画的に継続して自らの能力を向上させようとする習慣とそれを実現する能力を身につける。	インターンシップ	専1年	選択	2		5	4	3	2	1	
	工学特別ゼミナール(1年次)	専1年	必修	2		5	4	3	2	1	
	工学特別ゼミナール(2年次)	専2年	必修	2		5	4	3	2	1	
(D) 自分の考えを論理的に文章化する確かな記述力、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力、プレゼンテーション能力を身につける。	時事英語	専1年	必修	2		5	4	3	2	1	
	実用英会話	専1年	必修	2		5	4	3	2	1	
	テクニカルライティング	専1年	選択	2		5	4	3	2	1	
	ビジネスコミュニケーション	専1年	選択	2		5	4	3	2	1	
	工学特別ゼミナール(1年次)	専1年	必修	2		5	4	3	2	1	
	工学特別ゼミナール(2年次)	専2年	必修	2		5	4	3	2	1	
	特別研究Ⅰ	専1年	必修	4		5	4	3	2	1	
特別研究Ⅱ	専2年	必修	10		5	4	3	2	1		

特別研究成績評価細目(100点法による)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
実験計画を立て、その計画に沿って研究を進めることができる(B-e)				
研究に関連する資料・情報を収集・活用できる(B-h)				
研究データを収集・整理、問題点を分析し、解決策を考察できる(B-d(2)c)				
研究成果を整理して成果報告のための資料を作成できる(B-d(2)b)				
研究成果を発表し、討議できる(D-f)				

満足度(100点法による)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
専攻科入学後から現時点までの専攻科における学習や研究にどの程度満足していますか				

(H31年度以降修了生用 様式)

エコシステム工学専攻 _____年度入学 氏名_____

これは見本 Formsで実施します

学習教育目標	科目	学年	必・選	単位	選択の有無	学習・教育目標の達成度の自己判定					その理由や反省点等あれば記入してください。
						5	4	3	2	1	
(A) 和歌山県の地域環境、地域社会との共生に関する理解および倫理観を身につけ、公共の安全や利益に配慮したもののづくりの考え方を理解し説明できる。	環境アセスメント	専1年	選択	2		5	4	3	2	1	
	現代アジア論	専2年	選択	2		5	4	3	2	1	
	技術者倫理	専2年	必修	2		5	4	3	2	1	
(B) 社会のニーズおよび地球環境に配慮したデザイン能力を身につけて技術開発計画を立案でき、長期的な視野に立って自己研鑽を継続できる。	工学特別実験	専1年	必修	4		5	4	3	2	1	
	特別研究Ⅰ	専1年	必修	4		5	4	3	2	1	
	特別研究Ⅱ	専2年	必修	10		5	4	3	2	1	
	創造プログラミング	専2年	選択	2		5	4	3	2	1	
(C) 自主的・継続的な学習を通じて、自己の専門分野で深い学問的知識や経験に加え、他分野にまたがる幅広い知識を身につける。	(C-1) 自然科学・情報技術に関する基礎的素養を有し、専門分野での問題解決のためにそれらを駆使できる能力を身につける。	数理工学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		数理統計学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		数値計算・解析法	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		量子力学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		線形代数	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		情報理論	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		生産工学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		環境化学工学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		環境分析	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		センサー工学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
	(C-2) それぞれの専門分野に関する深い学問的知識と実験・実習で得た多くの経験を持ち、それらを問題解決のために応用できる能力を身につける。	パワーエレクトロニクス特論	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		精密加工学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		信号処理理論	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		材料科学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		応用エネルギー工学	専1年	選択	2		5	4	3	2	1
		計測制御工学	専2年	選択	2		5	4	3	2	1
		応用電子回路	専2年	選択	2		5	4	3	2	1
		情報伝送工学	専2年	選択	2		5	4	3	2	1
		機能材料学	専2年	選択	2		5	4	3	2	1
		ロボット工学	専2年	選択	2		5	4	3	2	1
(C-3) 長期的視点に立ち、計画的に継続して自らの能力を向上させようとする習慣とそれを実現する能力を身につける。	インターンシップ	専1年	選択	2		5	4	3	2	1	
	工学特別ゼミナール(1年次)	専1年	必修	2		5	4	3	2	1	
	工学特別ゼミナール(2年次)	専2年	必修	2		5	4	3	2	1	
(D) 自分の考えを論理的に文章化する確かな記述力、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力、プレゼンテーション能力を身につける。	時事英語	専1年	必修	2		5	4	3	2	1	
	実用英会話	専1年	必修	2		5	4	3	2	1	
	テクニカルライティング	専1年	選択	2		5	4	3	2	1	
	ビジネスコミュニケーション	専1年	選択	2		5	4	3	2	1	
	工学特別ゼミナール(1年次)	専1年	必修	2		5	4	3	2	1	
	工学特別ゼミナール(2年次)	専2年	必修	2		5	4	3	2	1	
	特別研究Ⅰ	専1年	必修	4		5	4	3	2	1	
特別研究Ⅱ	専2年	必修	10		5	4	3	2	1		

特別研究成績評価細目(100点法による)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
実験計画を立て、その計画に沿って研究を進めることができる(B-e)				
研究に関連する資料・情報を収集・活用できる(B-h)				
研究データを収集・整理、問題点を分析し、解決策を考察できる(B-d(2)c)				
研究成果を整理して成果報告のための資料を作成できる(B-d(2)b)				
研究成果を発表し、討議できる(D-f)				

満足度(100点法による)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
専攻科入学後から現時点までの専攻科における学習や研究にどの程度満足していますか				

令和5年度 専攻科授業担当

(R050202時点)

科目	担当	1年生		2年生	
		前期	後期	前期	後期
英語 I	森岡隆	○			
英語 II	森川寿		○		
現代アジア論	赤崎雄一			○	
ビジネスコミュニケーション	和田茂俊	○			
テクニカルライティング	椛島雅弘			○	
	デイビッドマーション				○
技術者倫理	志村幸紀				○
数理統計学	伊勢昇	○		○	
数理工学	青井顕宏	○			
線形代数	池田浩之	○			
数値計算・解析法	山東篤		○		
現代物理学	孝森洋介	○			
情報理論	謝孟春		○		
センサー工学	岡本和也		○		
応用エネルギー工学	山吹巧一		○		
環境化学工学	森田誠一	○			
環境マネジメント	平野廣佑				○

科目	担当	1年生		2年生	
		前期	後期	前期	後期
計測制御工学	村山暢		○		
パワーエレクトロニクス特論	山吹巧一		○		
ロボット工学	津田尚明			○	
材料科学	榎原恵蔵	○			
電気電子工学特論	直井弘之			○	
精密加工学	徐嘉榮		○		
伝熱工学	大村高弘		○		
熱流体工学	大村高弘			○	
信号処理理論	岩崎宣生			○	
応用デジタル回路	岡本和也			○	
創造プログラミング	謝孟春			○	
反応有機化学	野村英作		○		
化学反応論	河地貴利			○	
有機機能材料	舟浴佑典			○	
遺伝子細胞工学	楠部真崇	○			
分離工学	岸本昇		○		
生体高分子	土井正光			○	
応用材料工学	三岩敬孝	○			
応用地盤工学	林和幸		○		
建設設計工学	辻原治			○	
社会基盤計画学	伊勢昇			○	
水圏工学	小池信昭		○		
地域環境工学	平野廣佑			○	
複合構造工学	山田宰			○	